

親子ふれあい活動をもとにした 体力向上の取組

佐賀県

小城市立小城^{おぎ}中学校

全校生徒数587名

(男子303名 女子284名)

実践内容

実施目的

- ①生徒に楽しみながら運動や活動を行わせることで、運動への興味・関心を高め、運動に親しむ態度を養い、将来に向けた体力向上に役立てる。
- ②様々な運動や活動を通して、親子のコミュニケーションの場を設定し、楽しみながら良好な家族同士のつながりを深める。
- ③保護者に企画・運営を委ねることで、保護者間のつながりを密にするとともに、当事者意識を喚起する。
- ④教職員と保護者の関係を良好に保ち、一人一人の生徒の状況把握や学校の教育活動への理解と協力を深める場とする。

実施内容

1 「親子ふれあい活動」の実施

(1) 各学年の学級役員会による主体的な企画・運営

- ①各学年の保護者の学級役員が主になって年3、4回の学級役員会を開催し、活動内容を決定します。会議は保護者の学年部長、副部長が中心になり進め、学校からは学年の担当職員が参画します。活動内容や日程等を載せたチラシ等の作成、当日の役割等を保護者で分担しています。
- ②実施時期については、学級役員会の中で決定しています。3年生は夏休み、1・2年生は2学期の休日に、半日を使って実施しています。
- ③休日の実施のため希望制ですが、ほとんどの生徒や保護者が参加できるよう、連絡体制を整え、保護者間で参加を促しています。
- ④学校は会議や活動の場所を提供し、活動内容の調整や協力を行っています。
- ⑤活動場所は、校内に限定せず、校外での活動も実施しています。

(2) 「親子ふれあい活動」の実際(2~4種目程度を組み合わせて行う)

- ①ミニ運動会形式の活動(障害物競走、玉入れ、綱引き、リレー活動等を学級対抗で実施)
- ②ウォーキング形式の活動(サンライズウォーキング、〇〇祈願ウォーキングを実施)
- ③球技大会形式の活動(ミニバレーボール、フリースロー大会、ドッジボール大会等を学級対抗で実施)
- ④ボランティア活動と連携した活動(空き缶拾い、地域清掃等を実施後、ジャンケン大会、フォークダンス等を実施)

実施上で工夫したこと

- ①保護者が主体的に学級役員会を進められるよう支援しました。また、参加者を確保するため保護者が声かけ等を協力して行うよう、学級役員会の企画・運営をし、当事者意識を高めました。
- ②保護者と生徒の参加者を増やしたり、運動に対する抵抗感を取り除いたりするために、生徒が喜んで運動できるものを考えました。また、運動することにこだわらず、ボランティア的な活動も考え、親子でふれあいながら運動や活動できるもの、誰もが取り組みやすい種目、参加しやすい内容になるよう工夫をしました。
- ③保護者間、生徒間もこの活動を通してコミュニケーション能力の向上を目指しました。
- ④事前に活動場所の安全点検を行い、危険箇所の確認をしました。また、校外で活動を行う場合は本部を設置し、緊急時には即時に対応できるように体制を整えました。
- ⑤運動や活動後も親子で実施して楽しめるきっかけとなるよう、閉会時には保護者の代表から運動の大切さ、心地よさについて話していただき、各家庭での運動への意欲を喚起しました。

主な成果

- ①保護者との連携した取組によって、日常、積極的に運動しない生徒や、体力が低い生徒も積極的に「親子ふれあい活動」に参加して運動をする機会を設けました。
- ②平成23年度に本校で行った調査では、全校男子の87.1%(平成22年度87.0%)、女子の51.4%(平成22年度47.9%)が運動部活動に入部し、男子の89.4%(平成22年度88.1%)、女子の54.3%(平成22年度50.6%)が週に3日以上運動やスポーツを実施していると答えており、運動への興味・関心や親しむ態度が高まりました。
- ③保護者の当事者意識が高まり、熱心な取組となりました。

●運動部活動参加率の変化 (%)

第2学年	H22	H23
男子	87.0	87.1
女子	47.9	51.4

●週に3日以上運動やスポーツをしている人の割合の変化 (%)

第2学年	H22	H23
男子	88.1	89.4
女子	50.6	54.3



ボランティア活動

地域と協力して地域清掃をする様子



ジャンケン大会

ジャンケン大会の様子



フォークダンス

地域清掃後のフォークダンスの様子



ドッジボール大会

球技大会のドッジボールの様子



フリースロー大会

球技大会のフリースローの様子



綱引き

親子で一緒に綱引きの様子



3社参りウォーキング

ウォーキング途中の様子



サンライズウォーキング

ウォーキング途中のスナップ